



聖誕教会の降誕の場所の星

ベツレヘムの聖誕教会の高さ1.2mの低い玄関口に並んで、入場を許可されるのを待って、屈んで礼拝堂に入りましたが、中は薄暗い、天井の高い、太い柱が並んでいるだけのバシリカで、まるで工事中かいらと思うような空間でした。2012年に世界遺産になりました。

キリストは洞穴の中で誕生したとされています。339年にコンスタンティヌス大帝によって、その洞穴の上に教会が建てられました。そこへ6世紀にユスティニアヌス皇帝によって建てられたバシリカを移築したとのことで、聖誕教会は世界最古の会堂です。略奪や攻撃を受

けつつも、持ちこたえてきたのです。洞穴の大理石の床の上に銀の14角を持つベツレヘムの星が置かれています。それにそっと触ってきました。イエス様が洞穴で誕生されたということは考えつかなかったのですが、古代から居住空間として洞穴は自然の恵みであったのだと思い至りました。羊飼いの野でも羊飼いたちは洞穴で夜を明かしたようです。羊飼いの野の教会から眺めると、緑の斜面に白い大きい石がごろごろと転がっています。ダビデも少年時代、このあたりで羊の世話をしていた(サム上 12:11)のだろうと感慨深いものがありました。

聖誕教会の敷地内にある聖カテリーナ教会の庭にヒエロニムスの像がありました。彼については、絵で知っているだけでした。彼はこの洞窟に、386年頃から30年間籠って、ヘブライ語、ギリシャ語の聖書をラテン語に翻訳し、完成したと聞き、感動を覚えました。痩せこけた禿頭の老人が髑髏の側でペンを持っている絵を目にしますが、その絵が非常に慕わしく思えるようになってしまいました。

その後、南東に5km下ったところにあるヘロデオンを見学しました。ヘロデ大王の建造者としての稀代な才能をまた思い知らされました。標高758mの、富士山のように整った円錐形の、人工の要塞で、自分の名を取ってヘロデオンと命名しました。宮殿、浴場、シナゴグ、墓所もあり、個人用の劇場も備えていました。死海が見えて、眺望の素晴らしい、エルサレムとマサダの中継地点の要塞です。強大な権力を振るったのだと思わされます。



ヘロデ大王 (Wikimedia)

ヘロデ (74-4 BC)はイドマヤ人(エドム人)の生まれでしたが、ハスモン王朝に仕える、身分の高い家に生まれ、ユダヤ人として育てられました。王朝滅亡後、ローマの権力者に巧みに取り入り、属国「ユダヤの王」と称することを認められ、支配者となりました。政治家としての手腕もあったのです。

「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」を求めて訪ねてきた東方の賢者の言葉を聞いて不安に駆られ、更に彼らに「詳しく調べて知らせよ」と頼んでいたのに、無視されて、大いに怒って「ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた」(マタ 2:16)という聖書の箇所から、私たちは猜疑心の強い権力者、残忍な殺人者という面でヘロデを捉えています。事実ヘロデ

には、多数の妻がいて、息子もいましたが、権力闘争に関わったとして処刑された妻も息子もいます。ヘロデ亡き後、エルサレムはローマの直轄になりました。

三人の息子たちは、地方の領主となり、支配しました。ガリラヤ地方の領主になったヘロデ・アンテパス(治世6-39)はバプテスマのヨハネを処刑しました。(マタ14:1)イエス様はヘロデ・アンテパスを「あの狐」(ルカ13:32)と酷評していますが、彼は過越際に偶然エルサレムに滞在していて、ポンテオ・ピラトから送られたイエス様を侮辱して、死刑にも関わった(ルカ 23:6)とされています。北のバニアス地方の領主はヘロデ・ピリポ、ユダ地方の領主はヘロデ・アケラオでした。